

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和3年度）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<p>(1) 自主財源の獲得に向け、関係局との調整支援や先進的に取り組んでいる地域の情報提供を繰り返し行った。 その結果、コミュニティビジネスを実施していない2地域が新たにペットボトル回収事業の契約をし（①令和4年3月開始、②令和4年4月開始予定）自主財源獲得に対する意識の向上につながり、地域課題の解決に向けた取組が進められている。</p> <p>(2) 地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との間で連携、協働して取組を行えるよう、地域と企業、NPO等のニーズをマッチングさせ、新たなつながりづくりを実現させてきた『まちづくり交流ライブ』の開催や、適宜地域からの相談に応じた。 その結果、地活協と企業・大学生が連携した「子ども110番の家まち歩き」や、他区の地活協と連携した「防災情報交換会」、また学校と連携した「地域探求」の実施等、団体との交流へとつながっている。 しかし、若い世代やマンション住民など、これまで関わりの薄かった人たちのつながりの機会創出や、新たな担い手の拡大に向けた働きかけには結びついておらず、コロナ禍でも感染拡大防止対策をとりながら地域活動の促進に向けた支援が必要である。</p> <p>(3) コロナ禍でも意思決定や運営が適正に進められるよう、総会の書面決議に関する支援を行った。 その結果、各地域が滞りなく議決を行い、議決機関の適正な運営が確保されているが、対面でない分、各地域の実情や変化に気づき効果的な支援を行う必要がある。</p>

2 支援の内容及び効果等（2）

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<p>(1)『まちづくり交流ライブ』では、コロナ禍での取組事例の共有や、SNSを使った情報発信の勉強会等、Zoomを活用して実施した。</p> <p>その結果、企業や学校、他区の地活協等、構成団体以外との連携につながり、また地域のオンライン活用の一助にもなっている。</p> <p>(2-1)～(3)アドバイザーの指示のもと、3名の地域まちづくり支援員が分担して担当地域を受け持っている。区の担当課と毎朝の朝礼や週1回情報共有会の開催を通じて地域の状況や支援の進捗状況、支援方針等について確認を行いながら支援にあたっている。</p> <p>勤務体制の関係で担当不在の場合があり、主担当がいなくとも対応できるよう、他の支援員または副担当と連携し、より一層迅速かつきめ細やかな支援が必要である。</p>

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等（5つ以内）

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援の状況及び効果等

評価	左記の理由
B	<p>各地域の実情に応じた「広報機能の強化に向けた支援」「会計事務にかかる支援」を重点支援策とし、次の取組を行っている。</p> <p>(広報機能の強化に向けた支援)</p> <p>コロナ禍で地域情報が行き届きにくい中、様々な広報媒体で情報発信を行えるように支援を行った。</p> <p>その結果、新たに1地域が広報紙を発行、また1地域がはぐくみねっと公式LINEを開設したが、地域活動協議会のホームページを立ち上げていない2地域は、今年度も立ち上げには至らなかった。</p> <p>(会計事務にかかる支援)</p> <p>会計事務にかかる支援については、地域に寄り添った支援により、会計担当者に個別の対応を行っている。</p> <p>コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域活動協議会の事業の中止が相次ぎ、また年度途中で補助金の要綱が改正され、補助金使途に混乱が起こる中で、地域からの相談に応じ、補助金を有効に活用するための支援を行った。</p> <p>その結果、事業内容の見直しを行い、感染対策を取りながら事業を継続する地域や、事業の充実・拡充に向けた地域があり、適正な会計事務の執行が進められている。しかし、当初予定していた事業を変更・中止せざるを得ない状況もあったことから、事業の進捗状況を把握しつつ時宜を得た会計事務の支援が必要である。</p>

#### 4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

##### 評価項目

##### (1) アンケート調査

評価	左記の理由
B	地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査結果では、「まちづくりセンターの支援がニーズに即したものだと思う」の割合が今年度は84.8%となり、成果目標を達成しているものの、昨年度の結果92.1%からは大幅に減少していることから、地域の実情を把握し、工夫を凝らしてニーズに即した支援を講じる必要がある。

#### 5 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<p>まちづくりセンター独自の取組である『まちづくり交流ライブ』を通して地活協と構成団体以外の企業やNPO等とのつながりづくりに寄与していること、また自主財源の確保に向けてコミュニティビジネスの導入へとつなげることができたことは評価できる。</p> <p>コロナ禍で地域の運営や活動、補助金使途に関する相談が多い中で、各地域の実情に応じた対応が必要である。また、地活協形成から9年が経ち、地域の自律度に大きく差が表れており、一律の支援ではなく個別の支援が必要である。各地域に必要な支援を分析したうえで、自律的運営の促進に努めてほしい。</p>

##### (評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。